



課題推進チーム 環境

ゼロ エコパル山梨ごみ0係ニュース

◆◆◆◆ あなたが主役！ ◆◆◆◆ Vol.3

◇ エコパル山梨ごみ0係ニュース vol.1 アンケート集約結果 ◇

エコパル山梨ごみ0係ニュース vol.1 でいただいたアンケート結果では29名中、コンポストを使用していたのは 12 名（設置型コンポスト 11 名、新聞コンポスト 1 名、バケツコンポスト 1 名）で、生ごみ処理機を使っていた人はゼロでした。比較的敷地に余裕がある山梨県にもかかわらず、意外にコンポストを使っている人が少なかったと感じています。水分が多い生ごみを減らすことで、ごみ焼却処理にかかるエネルギーが減らせるので、もっと利用が進むといいですね。アンケート結果からは、設置型コンポストを使用されている方が特に多かったように思いますが、庭がなくても、EMぼかし菌を利用する新聞コンポストやバケツコンポストはベランダやキッチンでも使うことができます。このように様々なコンポストや使い方があります。まだ試されていない方はぜひこの機会にお試しください。

◇ 知っているつもりで意外と知らない生ごみ関連用語 ◇

コンポストとは英語で堆肥のこと。生ごみを発酵させて分解を促す装置は、コンポスターと呼ばれますが、日本では「コンポスト」と「生ごみ処理機」と呼ばれています。

【コンポスト】

一般的に、山梨でも畑や庭に置いてあるのを見かける「土中式コンポスト」（底が抜けたバケツのような形状の容器を地上に設置するタイプ）を思い浮かべますが、電気を使わない装置全般をコンポストといい、種類も増えてきました。特徴は、裏面の表を参照してください。

【生ごみ処理機】

電気を使って、有機物を処理するコンポストのことを指します。

【発酵促進剤】

- 自然界にある「落ち葉」には、生ごみを分解してくれる微生物がたくさんついています。
- 「米ぬか」は、発酵を促す微生物の宝庫です。
- 米ぬか内で善玉菌が増えた「EM ぼかし菌」を生ごみに混ぜ込むと、発酵が進み質の良い肥料ができます。ものによっては油カス、魚カスが入ったものもあり、独自チラシ「エシカル市場」やカタログでも取り扱っています。

キリトリ

～ オンライン企画 親子で考えよう！地球の熱を上げない方法 お申し込み用紙 ～

組合員名： _____ 組合員番号： _____

参加されるお子さんのお名前と学年 _____ () _____ ()

_____ () _____ () _____ ()

メールアドレス： _____

※切日：2月3日(金) 課題推進チーム環境 長田・猿渡 宛

.....オンライン企画参加者募集.....

親子で考えよう！

地球の熱を上げない方法

「ごみ」から「ストップ温暖化」について
親子で考えてみましょう！



日 時：2023年2月12日(日) 10:30 ~ 12:00

参加費：無料 定員：20組程度
申込締め切り：2月3日(金)

水路がたくさんある都留市では、捨てられたごみが水路に落ちて相模湖まで流れていってしまいます。少しでもごみを減らすために、除塵機(じょじんき)という装置でごみを回収するようになりました。

回収されたごみを観察しよう！

- このごみはどこからきて、何でできているのかな？ 一緒に考えてみよう。
- 地球の熱がどうして上がっているのか、紙芝居形式の画像で説明するよ。
- なぜ、地球が大変なことになっているのかな？ その理由を知ろう！
- 私たちにも、地球温暖化を少しでも抑える工夫ができるのかしら？
- グループワークで、自分が「できること」のアイデアを出し合おう！

小学生が理解できるくらいの内容ですが、弟妹とご一緒でも、大人だけでも大歓迎。
地球の未来を一緒に考えてみませんか。

※インターネット環境が必要です。Wi-Fi環境・通信量等ご確認ください。

※パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかでご自宅から参加できます。

※ZOOM接続に不安のある方は、下記、お問い合わせ先までご連絡ください。



←QRコードからも
お申し込みできます。

都留市の除塵機「まもるくん」→



お問い合わせ：課題推進チーム環境(長田・猿渡)

T E L 055-243-6327 メールアドレス：yamanashi-katudou@pal.or.jp

■□■エコパル山梨ごみ0係ニュース vol.1 アンケートQ & A ■□■

(アンケートでお寄せいただいた質問へのご回答です。)

Q.1 ごみを減らすには、あと生ごみの扱ただけだと思うもののコンポストを設置するには場所、費用、維持が大変？と二の足を踏んだまま〇年。コンポスト・生ごみ処理機等の種類、費用、メリット、デメリット等を一気に紹介してもらえるととても参考になり一歩前へ踏み出せる気がします。

A.1 電気を使わないコンポストと電気を利用する生ごみ処理機があります。多様な機種の特長、デメリットを表にしました。比較検討してください。

	費用	メリット	デメリット	様式	特徴
コンポスト	比較的安価 (3000~2万円程度)	堆肥食料サイクル	手間がかかる／虫・悪臭発生	バケツコンポスト	EMポカシ菌・米ぬか／屋内外／蓋付きバケツを使用／虫が湧きづらい
				新聞コンポスト	EMポカシ菌・米ぬか／屋内外／段ボール・カゴを使用／新聞紙で吸水
				土中式コンポスト	土が必要／屋外／容量が大きい
				回転式コンポスト	EMポカシ菌・米ぬか・落ち葉／屋内外／手で回すことで発酵を促進
生ごみ処理機	比較的高価 (1万~10万円程度)	補助金の利用可／庭がなくとも導入できる／衛生的	電気代がかかる	乾燥式	無臭／屋内外／動作音が大きい／処理時間が短い／乾燥させる／半年~1年ごとに中身が増えたら取り出す／電気代は高め／サイズは小さめ／1~7万円
				バイオ式	臭いが出るので屋外／動作音が小さい／処理時間がかかる／毎回~2週間に一度取り出す／堆肥食料サイクル／チップを使う機種もある／電気代は他機種の間程度／サイズは大きめ／8~10万円
				ハイブリッド式	無臭／屋内外／動作音が小さい／加熱で微生物の分解を促進／半年~1年ごとに中身が増えたら取り出す／堆肥食料サイクル／電気代は安め／サイズは他機種の間程度／10万円~

Q.2 補助委金制度を自治体に確認する前に具体的に意思決定できるチャンスがあるとありがたいです。

A.2 【甲府市の場合】

電気式生ごみ処理機・・・本体購入金額(税込)の3分の2を補助(補助上限額:50,000円)

容器式生ごみ処理機・・・本体購入金額(税込)の2,000円までは全額、2,000円を超えた部分は2分の1を補助(補助限度額:5,000円)

(例):電気式生ごみ処理機65,625円(税込)を購入した場合・・・65,625円の3分の2で43,750円となりますが、100円未満は切り捨て43,700円の補助を受けることが可能。詳細については甲府市環境部環境対策室ごみ減量課までお問い合わせください。

※各自治体によって補助金制度が違いますので担当窓口へお問い合わせいただければと思います。

Q.3 ごみが自宅で処理できればごみ処理費用がかなり減ると思いますがコンポストは「虫がでるからイヤ」という人もいますね。虫対策を教えてください。

A.3 1)一度に大量に入れない 2)細かくきざむ 3)水分をきる
4)土をかぶせる 5)石灰をまぜる

↑上記1~5を定期的に行うことにより虫の発生を抑制する効果があるといわれています。

Q.4 「ラーメンや煮物の残り汁も排水溝に流さない」とありますが具体的にはどのように工夫されているのでしょうか？

A.4 汁物は庭の掘った穴に。土中のバクテリアが分解してくれます。

Q.5 食品ロス=生ごみとのことですが、疑問に感じました。個人的見解ですが、生ごみとは、野菜くず、魚の骨やアラ、肉のくずなど、生っぽく水気を含んだものと認識しておりました。まだ食べられるが、消費期限切れの乾いたものも生ごみなのでしょうか。生ごみの定義を教えてください。

A.5 生ごみの定義は、水分を多く含む廃棄物のことで、主に野菜くず、食べ残し、食材の調理から出たごみなど、台所から出る水分を含んだごみを指します。ですので、乾いたものは生ごみではないので、生ごみと一緒に出すのではなく、例えば、玉ねぎの皮などは、生ごみと一緒に入れないように捨てていただければと思います。

Q.6 パルシステムは、ごみに対してどのように取り組んでいますか？

A.6 パルシステムの取り組みを以下のようにまとめました。

①食品ロス

店舗運営の場合に流通過程で生じる食品ロスを、受注生産にすることで(無店舗運営)抑える、また、年間を通じて計画的に作付け、栽培することで、ここでも食品ロスを抑えています。

しかし、歩留まり(製品率のこと。流通の過程で痛みが生じたり、製品として適していない品質の物が含まれている割合)を考慮して多めに発注する青果原料は余剰をできるだけ少なくする方法として、「作業者のカット技術の向上」、「長年の産直事業で培った産地との関係性の蓄積」、「鮮度が高く傷みがない良質な原料を調達するノウハウ」、「組合員の受注数と製造現場に入荷した原料の歩留まりを細かく調整する」などの工夫をしています。また毎週一定数発生する「予備青果」を、フードバンクや子ども食堂などの事業に役立てることで、社会貢献につながっています。

また、工場野菜をカットして発生した食品廃棄物は、すべてリサイクル施設で処理されて、専門業者が3カ月程度かけて堆肥化し、市販の家庭菜園用肥料などにリサイクルされています。

②プラスチック削減

2022年7月25日から「お料理セット」のプラスチック製トレーが紙製に切り替わりました。このことにより年間のプラスチック使用量は、前年度実績からの算出で146トン削減される見込みです。セット作業時の負荷や結露などに対する耐久性・強度を高めるため紙製トレー表面にコーティング剤を使用すればリサイクルが難しくなります。再生可能な資源の最大限の有効活用を図るため、使用後のトレーを紙製トレーに再生させるために3年の歳月を要しました。

これ以外にも、紙パック容器のボディソープ「地球の未来にまじめなボディソープ」を作ったり、容器包装の見直しを図って、少しでもプラスチックごみが減ることを願って商品開発を進めています。

③リサイクル

ごみ減量への取り組みとして、リユース(再使用)、リデュース(発生を抑制)、リサイクル(再生利用)の3Rはご存じでしょうか？最近ではリフューズ(断る)を加えて4R、リペア(修理)を加えて5Rなど、資源を大切に使う無駄なごみを減らす活動が活発になっています。しかし仕組みが構築されないとできない活動もあるため、パルシステムでは現在は3Rの推進に取り組んでいます。すべての容器・包装が回収できるわけではありませんが、他で回収しないものを回収できたり、ミネラルウォーターのペットボトルのように、通常とは異なるリサイクル方式である「ボトルtoボトル」を採用したりと、パルシステム独自の取り組みもあります。